

【確定版】



令和8年度 江戸川区立篠崎中学校 学校経営計画



令和8年度から実施される「あなたを励ますプログラム」の取り組みの一部
前年度卒業生の10年後の「夢」を綴った「Tree of Dreams」(令和7年3月2日)

令和8年4月1日
江戸川区立篠崎中学校
校長 紅林 兼一

令和 8 年度

江戸川区立篠崎中学校 学校経営計画

もくじ

もくじ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
1	【中期目標】令和8年度 教育指導課重点事業 概要	P 3
2	本校の現状	P 4
3	教育目標	P 4
4	スローガン	P 4
5	目指す学校像	P 4
6	RPDCAサイクルに基づいた教育計画の流れ	P 4
7	【令和6年度学校経営計画】基本方針と具体的方策	P 5
	全体共通 ～通常学級～	P 8
	基本方針（1）時代を見据えた学力向上	P 9
	基本方針（2）学習指導要領に対応した教員の指導力向上	P 9
	基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	P 10
	基本方針（4）自己と他者を大切に、多様性を認め合える 人権尊重意識の涵養	P 11
	基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実	P 11
	基本方針（6）「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた 不登校支援の充実	P 12
	基本方針（7）共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	P 13
	基本方針（8）CS 運営マニュアルに基づいた CS 運営充実	P 14
	基本方針（9）学校情報の積極的な配信	P 15
	基本方針（10）教員の生徒と向き合う時間の確保	P 15
	基本方針（11）より良い学校設備の整備・充実	P 16
	基本方針（12）食育の推進	P 17

特別支援学級 ～8組～		P18
基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実		P19
基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実		P19
チャレンジクラス ～9組～		P20
基本方針（1）チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた 学力向上		P21
基本方針（2）学習指導要領に対応した教員の指導力向上		P21
基本方針（3）豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実		P22
基本方針（5）生徒理解に基づいた支援の充実		P23
基本方針（6）「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた 不登校支援の充実		P24
基本方針（7）共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進		P24
基本方針（8）CS 運営マニュアルに基づいた CS 運営充実		P25

1 【中・長期目標】教育指導課重点事業 概要

「令和8年度 教育課程編成に向けて（江戸川区教育委員会 教育指導課・教育研究所）」

<江戸川区教育大綱>

- 人とともに生きる：自分らしく学べる教育の実践
- 社会とともに生きる：支え合う力を強みにするしくみづくり
- 経済とともに生きる：学びを生かして挑戦できる土台づくり
- 環境とともに生きる：生きる力を育むための環境づくり
- 未来とともに生きる：未来を切り拓く力を養う教育の実践

<江戸川区の教育目標>

- こころ豊かに たくましく 教育の江戸川
- 自他を尊重し、人間性豊かで道徳心のある人
 - 自ら学び実践し、共に教え合い、育ち合う、創造力と協調性豊かな人
 - 将来の夢をもち、個性豊かに、持てる力を発揮して、進んで社会に貢献できる人

<江戸川区の基本方針>

- 基本方針1：共生社会の実現と人権尊重の精神の育成
- 基本方針2：学校教育の充実
- 基本方針3：学びを支える教育環境の整備
- 基本方針4：健全育成活動の推進
- 基本方針5：文化遺産の伝承

- 教員の授業力向上
- 学力の向上
- 学習習慣の確立
- 体力の向上
- 読書科の推進
- 食育・健康教育・安全教育
- 教員の育成、活躍の場の設定

- 不登校や発達支援等の課題を抱える子ども支援
- 特別支援教育の充実
- 児童・生徒の多様な居場所づくり
- いじめの早期発見・早期対応

- 教育環境の中・長期的な整備及び在り方検討の開始
- 社会的自立に必要な力の育成
- 地域に開かれた学校（園）の実現
- 区独自の学習・体験活動
- 学校を支える様々な人材

2 本校の現状（令和7年度学校評価および令和7年度校長所見）

（1）成果

- ①横這いではあるものの、学力については、高い状態で維持している。
- ②反転授業について、一定程度の理解浸透は図られた。
- ③家庭と連携を図った道徳授業はかなり好評であった。
- ④生徒会予算の導入については、おおむね好評である。
- ⑤「あなたを励ますプログラム」が完成し、自己肯定感の向上が期待できる。
- ⑥コミュニティスクールの実施に向けた準備が整った。
- ⑦チャレンジクラスの登校状況については良好である。

（2）課題

- ①学力向上については、しっかりと成果が出せる取り組み強化が必要である。
- ②次期学習指導要領の方向性の理解については、道半ばである。
- ③不登校数については減ってきてはいるものの、十分ではない。
- ④教員の特別支援学級での出前授業については、まだまだ、定着していない。
- ⑤読書科・総合的な学習の時間の抜本的な見直しが必要である。
- ⑥教員の働き方改革は結果が出てきているが、次の数値目標が必要である。

3 教育目標

- ・よく学び、深く考える生徒
- ・思いやりと規範意識のある生徒
- ・すすんで体を鍛える生徒
- ・社会に貢献する生徒

4 スローガン

「School for the future with you ～ 未来をあなたと ～」

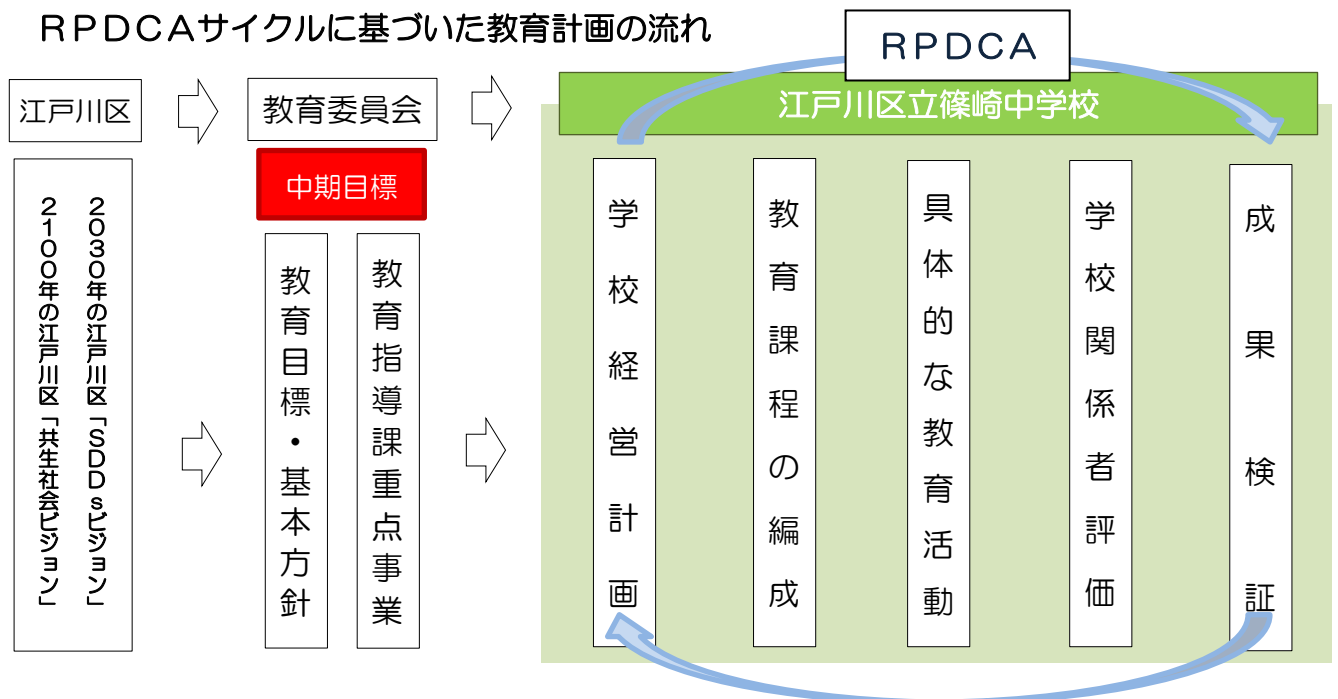
5 目指す学校像

上記、学校目標を達成するための

《目指す教師像》 生徒のやる気に火をつけられる教師

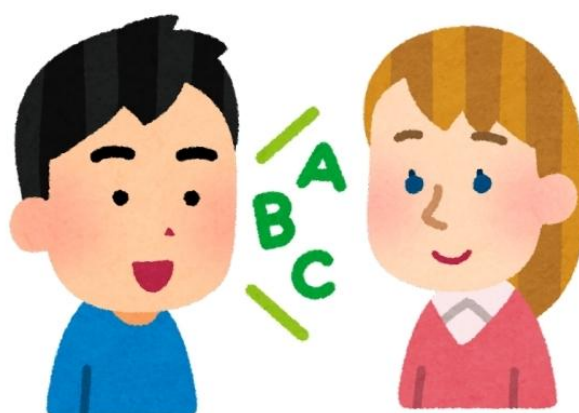
《目指す子供像》 主体的に考え、行動できる生徒

6 RPDCAサイクルに基づいた教育計画の流れ



7 【令和8年度学校経営計画】基本方針と具体的方策

中期		基本方針	具体的方策 (赤字は数値目標のある方策)	ページ		
全体共通 (通常学級)	学力向上	(1)時代を見据えた学力の向上	①イングリッシュルームの設置、AI活用した毎日10分間のイングリッシュタイムの設定、イングリッシュウィークの設定、イングリッシュキャンプの実施など、日常的に英語に触れさせる機会の充実	P9		
		(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	①フィールドワークの実施など、調べる学習の質の向上 ②反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的な実施	P9 P9		
	体力向上	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①本校の課題を意図した保健体育科の授業における補助運動の充実	P10		
			②「フィットネスエリア」を活用した個に応じたトレーニングの各部活動等での活用推進	P10		
	健全育成	(4)自己と他者を大切に、多様性を認め合える人権尊重意識の涵養	①道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実	P11		
			②職員の人権尊重教育に係わる研修(フィールドワーク等)を実施した人権尊重意識の涵養	P11		
		(5)生徒理解に基づいた支援の充実	①生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動の活性化	P11		
			②「あなたを励ますプログラム」を活用・推進した生徒の自己肯定感の涵養	P11		
	共生社会	(6)「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	①ほっとルーム及びチャレンジクラスを活用した支援レベルに応じた支援の充実	P12		
			②不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進	P12		
			③主・副の区別がない複数担任制を導入したきめの細かい支援の充実	P12		
	開かれた学校	(7)共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進	①日常的な交流及び共同学習の機会の拡充	P13		
②全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業の徹底			P13			
その他	(8)CS運営マニュアルに基づいたCSの運営充実	①地域の方々を部活動に招いた「篠中サークル」など、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進	P14			
		②「私のボランティア手帳」を活用した学校内外におけるボランティアの推奨	P14			
その他	(9)学校情報の積極的な配信	①「篠中ちゃんねる」(動画配信)の充実	P15			
		(10)教員の生徒と向き合う時間の確保	①篠崎中学校「働き方改革推進計画」による教員と生徒と向き合う時間の確保	P15		
			(11)より良い学校設備の整備・充実	①学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用	P16	
その他	(12)食育の推進	①日本の郷土料理と世界の料理を給食メニューで紹介	P17			
		体力向上	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①休休みを活用した週4回程度のフィットネスルームを活用した個に応じたトレーニングの充実	P19	
チャレンジクラス (9組)	健全育成	(5)生徒理解に基づいた支援の充実	①野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習の充実	P19		
			学力向上	(1)「チャレンジクラス運営マニュアル」に基づいた学力向上	①学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究	P21
					②音楽科、美術科、技術科、家庭科における、週時程に弾力性をもたせた指導の実施	P21
	学力向上	(2)学習指導要領に対応した教員の指導力向上	③定期考査を廃止し、評定によらない評価の実施、個の学習進度に応じた実力テストを実施	P21		
			①理科・社会科における、自己の課題の解決に向けた調べる学習と定期的な発表会をの実施	P21		
	体力向上	(3)豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実	①専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラックス」の実施	P22		
			健全育成	(5)生徒理解に基づいた支援の充実	①標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直し	P23
	②日々の記録を綴ることができる「L-gate」を活用した支援	P23				
	③登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング(SST)の実施	P23				
	共生社会	(6)「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実	①登校コースに併せて、双方型オンライン授業による指導体制の構築	P24		
			②従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実	P24		
			③「ほっとルーム」をプレ学級(準備学級)と位置付け、学習意欲の向上等、入級準備	P24		
④年間を通じた農業体験やセカンドスクール等、平素と異なる生活環境での体験的な学習を実施			P24			
開かれた学校	(7)共生社会の実現に向けた教育の推進	①特別支援学級との交流給食の実施	P24			
開かれた学校	(8)CS運営マニュアルに基づいたCSの運営充実	①地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会活動として実施した帰属意識の涵養	P25			
		②生徒の部活動や地域活動への参加を促進	P25			



全体共通 通常学級



基本方針（1）：時代を見据えた学力の向上

具体的方策

- ① イングリッシュルームの設置、AI活用した毎日10分間のイングリッシュタイムの設定、イングリッシュウィークの設定、イングリッシュキャンプの実施など、日常的に英語に触れさせる機会の充実。

数値目標

ESAT-J（第3学年）のスコア グレードA

3年・・・R4「C」 R5「C」 R6「B」

※3年は平均スコアのみ提示

2年・・・R6 「A」3.9% 「B」64.1% 「C」32%

1年・・・R6 「A」4.9% 「B」76.4% 「C」18.7%



取組イメージ

イングリッシュルーム

- ・躊躇なく英語が話せる生徒を育成するための環境を整備した教室。

イングリッシュタイム

- ・朝の20分間の学習時間を活用して、英語での聞く、話すに特化したAI学習の時間。総合的な学習の時間の一貫で、3年次には総合的な学習の時間で調べたことを英語でプレゼンできるようプログラムしている時間。

イングリッシュウィーク

- ・朝や帰りの学活の他、生徒会活動等、英語を活用することを目的とした週間。

イングリッシュキャンプ

- ・民間を活用しての英語活動を中心とした宿泊活動。

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

- ① フィールドワークの実施など、調べる学習の質の向上。
 ② 反転学習を導入した課題解決型学習に関わる授業研究を計画的な実施。

数値目標

図書館を使った調べる学習コンクール、区内受賞者10名以上

R6 529人が出品（内 区内銀賞4名）

R7 531人が出品（内 区内銀賞4名 奨励賞）

取組イメージ

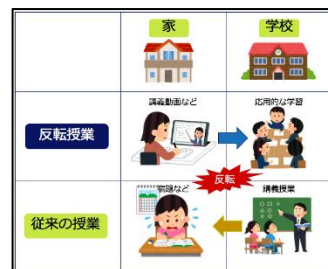
読書科・総合的な学習の時間におけるフィールドワーク

- 本校の大テーマ「日本を世界に売り込む」に基づき、総合的な学習の時間をまとめて設定し、生徒自身の考える課題に対するフィールドワークを行う。



反転学習

- 授業前に動画教材などを活用して事前学習し、授業で意見交換をしたり学び合い・教え合いをしたりする授業形式



【中期目標2】体力の向上

基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- 本校の課題を意識した、保健体育科の授業における補助運動の充実。
- フィットネスエリアを活用した、個に応じたトレーニングの充実。

取組イメージ

補助運動

各単元における技や技術と関連させた補助運動や部分練習等を意図的・計画的に実施
参考例一部

- 陸上・・・スクワット歩き・腕振り、サイドステップ、ハーキーステップ
 - 器械運動・・・カエル、犬、ペンギン、蜘蛛等の歩き
 - 水泳・・・腰掛けキック、イルカ跳び、20秒間泳
 - 球技・・・片手パス（ショート、ロング）、ラダーステップ、カラーコーンダッシュ
 - ダンス・・・3ウェイ背筋、足上げ腹筋、ストレッチ
 - 剣道・・・四股、仰向けでの首上げ、素振り
- これらを例に一つの運動を正確に20～30秒程度全力で行う運動を数セット実施

「フィットネスエリア」

- 部活動との連携や放課後のトレーニング部等でトレーナーとともに、主体的に自己の筋力等を整えることができるスペースを設置。
- ※ あくまでも、中学生期に必要なトレーニングを中心とする



基本方針（4）：自己と他者を大切に、多様性を認め合える 人権尊重意識の涵養

具体的方策

- ① 道徳地区公開講座を充実しての学校と家庭の連携を図った道徳教育の充実
- ② 職員の人権尊重教育に係わる研修の充実（フィールドワーク等）



保護者との連携を図った道徳の授業

保護者及び生徒をパネラーにした、学年や学級での道徳の授業を行い、生徒の道徳性を養う。



人権教育に係わる研修（フィールドワーク）参考例一部

東京都人権プラザ、国立療養所多磨全生園・国立ハンセン病資料館
お肉の情報館、観臓記念碑（小塚原回向院）、東京都立皮革技術センター東京江
戸東京博物館、アイヌ文化交流センター 等

基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 生徒会予算を投じた、より主体的な生徒会活動の活性化。
- ② 「あなたを励ますプログラム」を活用・推進した生徒の自己肯定感の涵養。

数値目標

hyper-QU*2 回目において、学級生活不満足度群が全体の 10%以下

R6 1年：17% 2年：17% 3年：10%

R7 1年：13% 2年：11% 3年：15%



生徒会予算を投じての生徒会活動の活性化

概ね 10 万円程度（プラス PTA 会からの援助）の予算を投じて、江戸川区子どもの権利条約に基づいた、子供たちによる、子供たちのための生徒会組織の活性化を図る。



注釈

※ hyper-QU とは、学校生活における生徒の満足度や意欲、学級集団の状態等を質問紙によって測定するもの

※その他

- あなたを励ますプログラムの作成
生活指導は、生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長及び自己実現を支えることを目的とした教育活動全体を通したプログラム。
- 主な取り組み
「エンカウンター」
年間をとおして、各学年 6 回程度を意図的・計画的に実施。
「達人ちゃん表彰」
自薦。多選問わず、人より長けていることを表彰する。例：黒板の板書を消すのが得意、野球部の声出しが得意、サッカーのリフティングだけは得意など。
「悩みに応える」
生徒会が募集した「あなたの悩み」に回答・掲示。
「夢のなる木」
第三学年卒業期に自己の 10 年後をイメージしたカードを配布・掲示。

【中期目標 3】子どもたちの健全育成の強化

基本方針（6）：「未来を担う子供たちの自立に向けて」に準じた不登校支援の充実

具体的方策

- ① ほっとルーム（校内別室）及びチャレンジクラス（教員を配置した校内別室学級）を活用した支援レベルに応じた支援の充実
- ② 不登校・不登校傾向の生徒の部活動や地域活動への参加を促進
- ③ 主・副の区別がない複数担任制を導入したきめの細かい支援の充実

数値目標

不登校もしくは長期欠席者のうち、外部専門機関につながっていない生徒 0 人
R6 2人 R7 0人

取組イメージ

ほっとルーム

不登校・不登校傾向の生徒に対して、以下を目的として、登校を促し、教室復帰や他機関につなげることを目的とする。

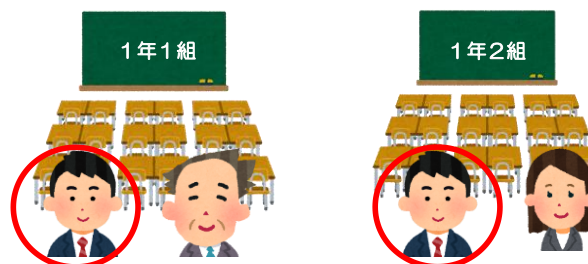
- 継続的な登校を支援することで、一人一人の生徒の悩みや不安などの原因を把握
- 学校・学級に対する所属感や安心感を維持させる。
- 登校することにより、生活習慣の安定を図る。

チャレンジクラス（9組）

生徒が、安心して学校生活を送ることができるようなゆとりのある生活時程を実現し、学習保証、心理的な支援を行うクラス。各学年 10 名程度。

複数担任制の導入

義務教育等教員特別手当の学級担任加算導入に伴い、本校では全教員が担任となり、生徒のきめの細かい支援の実現を目指す。



【中期目標4】共生社会の実現に向けた教育の推進

基本方針（7）：共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進

具体的方策

- ① 日常的な交流及び共同学習の機会を設定しての交流及び共同学習の更なる充実
- ② 全教員による年間1回以上の特別支援学級における出前授業の実施

数値目標

○全通常学級担当教員による出前授業 80%
R6 平均 27.3% R7 平均 35%



取組イメージ

交流及び共同学習（一部参考例）

- （仮称）副籍学級を指定し、給食や行事、部活動等で、日常的に交流
- 音楽、美術、保健体育、技術、家庭の実技教科を中心に、本人及び保護者の希望に応じて、共同学習を実施



全教員による特別支援学級における出前授業の実施

教員の資質向上を目的として、全ての教員が、特別支援学級において、年間最低1回以上の出前授業を行い、「わかる授業」の手がかりとする。



基本方針（8）：CSマニュアルに基づいたCSの運営充実

具体的方策

- ① 地域の方々を部活動に招いた「篠中サークル」や地域の方々をゲストティーチャーに招くなど、地域学校協働本部を活性化させた多様な活動の推進。
- ② 「私のボランティア手帳」を活用した学校内外におけるボランティアの推奨

数値目標

○篠中サークル3つ以上

R7 0サークル

○年間1回以上、生徒の半数以上が地域等のボランティアに50%以上が参加

R6 24% R7 43%



取組イメージ

篠中サークル

既存の部活動で、地域の方々が入部しても良い部活動を募り、地域の方々と生徒と一緒にスポーツ・文化的活動を楽しむ機会を設定する。

予定サークル：ヨガ、バドミントン、卓球等

ゲストティーチャーによる授業

〈R7の取組〉

第一学年・・・職業人に話を聞く会（保護者）、薬物乱用防止教室、

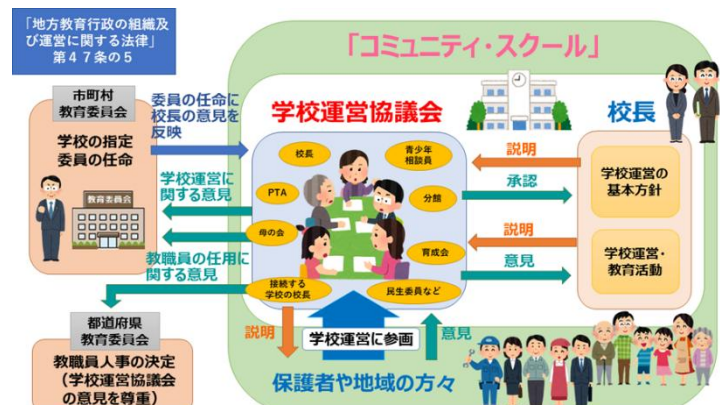
第二学年・・・職業体験（慈恵学園）、

第三学年・・・道徳地区公開講座（保護者）、

その他・・・新春対談（P会長）、

地域のボランティア

校内ボランティアや地域祭り等において、中学生が地域を担う人材の一人としてボランティアを実施。



基本方針（9）：学校情報の積極的な配信

具体的方策

- ① 篠中ちゃんねるの充実



数値目標

年間 10 本以上の動画の配信

取組イメージ

篠中チャンネル

学校情報について、全校朝礼を中心に配信。次年度は、テーマを絞った番組を作り保護者と教育に関わる情報を共有できるようにする。

基本方針（10）：教員の生徒と向き合う時間の確保

具体的方策

- ① 篠崎中学校「働き方改革推進計画」による教員の生徒と向き合う時間の確保。



数値目標

超過勤務時間、月 45 時間以内が 10 か月以上の職員が全体の 7 割
R7 ⇒ 概ね 9 割が 60 時間以内

取組イメージ

働き方推進計画（概要）

- 1 管理職による取り組みの徹底
 - (1) 管理職の確固たる決意の発信
 - (2) 江戸川区立篠崎中学校における「働き方改革推進計画」の策定
 - (3) 「学校経営支援部」の設置による、学校業務の適正化、効率化
 - (4) 学年会計事務の分掌見直し（篠中モデルの確立）
 - (5) 学校校務分掌の平準化
 - (6) 教職員の在校時間縮減に向けた取り組み強化
 - (7) 担当業務における引き継ぎ書の作成
 - (8) 「部活動の活動指針」の策定及び実施

- 2 校内校務改善委員会による取り組みの提案・推進
 - (1) 会議の縮減、効率化
 - (2) 学校行事の見直し・修正
 - (3) 担任業務の平準化・簡素化
 - (4) 学校を介さない行事写真や教材等の集金システムの推進
 - (5) 定期考査の採点ソフトや業者テストの活用
 - (6) 清掃指導の精選
 - (7) 学校設備管理
 - (8) 保護者会・三者面談
- 3 教職員一人一人の意識改革に向けた取組の推進
 - (1) 職員室および机上の整理・整頓
 - (2) スクールサポートスタッフの効果的な活用
 - (3) 連絡掲示板の効果的な活用

【中期目標6】その他

基本方針（11）：より良い学校設備の整備・充実

具体的方策

- ① 学校のデッドスペースを活用した、教育スペースの確保・有効活用

取組イメージ

整理・整頓の手順

○今後の流れ

学校のデッドスペースの洗い出し

→整理・整頓すべき財産の洗い出し

→整理・整頓に係わる原案（含む予算案）

→原案を達成するためのスケジュール案周知

→整理・整頓

→継続してのチェック・確認



基本方針（12）：食育の推進

具体的方策

- ① 日本の郷土料理と世界の料理を給食メニューで紹介する。

取組イメージ

世界の各国料理

ガパオ風ライス、チリコンカン、ビビンバ、ボルシチ他

日本の郷土料理

のっぺい汁、芋ご飯、ちりめん梅ご飯他



特別支援学級 ～ 8組～

※全体共通 通常学級と併せて、特別支援学級（8組）のみに対応した
経営計画を記載



基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- ① 昼休みの週4回程度のフィットネスルームでの個に応じたトレーニングの充実

数値目標

週4回の実施



主なトレーニング例

- ・体幹トレーニング（ラダー、ストレッチ等）
- ・バドミントン等の軽い運動
- ・特別支援体育連盟主催大会（陸上、バスケットボール）参加ための練習
- ・冬場の持久走
- ・リズム運動 等



基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 野菜や雑巾販売、喫茶店などPTAと連携した作業学習を充実する。

数値目標

PTAと連携した作業学習を年間3回以上実施。



PTAと連携した作業学習

PTA 予算から、作業学習に必要な教材費を投じて、物品の制作から販売までの一連の流れを作業学習の一環として実施する。



チャレンジクラス ～9組～

※全体共通 通常学級と併せて、チャレンジクラスのみに対応した
経営方針（計画）を記載



基本方針（1）：チャレンジクラス運営マニュアルに基づいた学力向上

具体的方策

- ① 国語科・数学科・英語科において、各教科担当教員を中心にチームティーチングを行い、学年の枠を超えた3クラス6展開の習熟度別自由進度学習の研究をする。
- ② 音楽科、美術科、技術科、家庭科については、各教科のねらいを維持させつつ、通称名「創造」とし、週時程に弾力性をもたせた指導を行う。
- ③ 定期考査を廃止するなど、評定によらない評価を行う一方で、個の学習進度に応じた実力テストを実施するなどして、学習の習熟の程度を確認する。

取組イメージ 

習熟度別自由進度学習

概ね、小学校低学年、中学年、高学年、中1、中2、中3の6段階に分けた習熟度の中で、個に応じた進度で、遡り学習ができるような学習環境を作り、抜けのない学習を推進する。

基本方針（2）：学習指導要領に対応した教員の指導力向上

具体的方策

- ① 理科・社会科においては、生徒の選択した学習問題を設定し、自己の課題の解決に向けた調べる学習を実施し、定期的な学習発表会を実施する。

取組イメージ 

参考授業例

社会科の歴史分野の江戸時代について、Aさんは、その時代の身分制度、Bさんは、文化、Cさんは、中心人物など、単元に応じたテーマを設定し、調べ、発表を行う。



基本方針（3）：豊かなスポーツライフの実現に向けた取組の充実

具体的方策

- ① 保健体育科「体づくり運動（体ほぐしの運動）」において、専門家等と連携した自律神経を整える運動、通称名「リラックス」の授業を実施する。



リラックス

保健体育科「体づくり運動（体ほぐしの運動）」の一部で行う授業の通称名



基本方針（5）：生徒理解に基づいた支援の充実

具体的方策

- ① 標準服や体育着の着用を求めないなど、生徒の実態に応じた「きまり」の抜本的な見直し。
- ② 日々の記録を綴ることができる「L - gate」を活用した支援。
- ③ 登校後の朝の時間を活用し、ソーシャルスキルトレーニング（SST）を実施。

取組イメージ

L - gate

明日の持ち物だけでなく、登校時の体調や気分等の把握を行い適切な支援を講じる。

ソーシャルスキルトレーニング

市販教材のロールプレイやゲームなどを通して、対人関係などのスキルを学ぶ時間を毎朝短時間行うようにする。

<例>

- きっかけ言葉を上手に使う。
- ついついしちゃうこと。
- 嫌な子がそばにきたら。
- 折り合いをつけよう。



基本方針（6）：「未来を担う子供たちの自立に向けて」 に準じた不登校支援の充実

具体的方策

- ① 登校コースに併せて、双方型オンライン授業による指導体制の構築
- ② 従来の教室環境を一掃し、生徒がより主体的に学べる教室環境の整備・充実をする。
- ③ 「ほっとルーム」をプレ学級（準備学級）と位置付け、学習意欲の向上等、入級準備をする。
- ④ 年間を通じた農業体験やセカンドスクール等、平素と異なる生活環境での体験的な学習を実施する。

数値目標

- 全生徒が、入級後、全体の出席すべき日数の内、90%出席
R6・・・87.2% R7・・・91.9%



従来の教室環境を一掃した教室環境

従来の椅子や机を一新し、個別最適化に適した学習環境を整える。

平素と異なる生活環境での体験活動（参考例）

農業体験、都内ウォークラリー、ボーリング教室、都内宿泊を用いての学校生活。

基本方針（7）：共生社会の実現に向けた特別支援教育の推進

具体的方策

- ① 特別支援学級との交流給食を実施する。

数値目標

- 1回1週間程度を目途に、年間3回実施。

基本方針（8）：CSマニュアルに基づいたCSモデル校の運営充実

具体的方策

- ① 地域と連携した「ウェルカムフラワー運動」を委員会活動として実施した帰属意識の涵養を図る。
- ② 生徒の部活動や地域活動への参加を促進する。

数値目標

○本校部活動、もしくは、地域のボランティアサークルに年間を通して参加する生徒の割合が5割以上。

R6 66.7% R7 47.1%

取組イメージ

平素と異なる生活環境での体験活動（参考例）

- ・ポニーランドにおける馬の世話
 - ・高齢者施設での介護
 - ・水辺の環境整備
- など



